

参加者感想文集

交流会に参加して

上板中学校 Nさん

私は、交流会に参加して本当に良かったと思う。理由は、信じ合える仲間がたくさんいるというのが良かったことと、たくさんの方の意見が聞けたから。みんないろんな意見を持っていた。私が一番に残った意見は「同和問題学習の授業の時、僕が意見を言った後に、誰も意見を言ってくれないと、僕一人が授業を受けているみたいで、むなしくなる」ということだった。私は、彼の気持ちが痛いほどよくわかった。私にも似た経験があるから。どんなに一人が頑張っても、みんなが頑張らなければ、部落解放に向けての第一歩が踏み出せないと思う。彼が言ったことは、交流会に来ていたみんなが思うことだと思った。

信じ合える仲間を作ることは、自分にとっても、相手にとっても、すごく大切なことだと思う。信じ合える仲間がたくさんいればいるほど、将来自分がどんな苦しい差別を受けても、助けてくれると思う。去年と今年、二回交流会に参加して、あらためて、信じ合える仲間がどんなに大切

なものかということがわかった。

来年も交流会に参加して、今年以上に多くの信じ合える仲間を作りたいと思う。「信じ合える仲間と共に」という今年のスローガンは、今年の交流会にふさわしいものだったと思う。

私の決心

三島中学校 Mさん

交流会へ行くまでの私は、自分の思う部分を出せず、やっぱり心のどこかで、みんなからは一線を引いていたところがあったような気がする。恥じることではないというのが分かっていても、悩んでしまう自分の弱さが、時には恨めしく、そして憎かった。でも、交流会に行ってから、私はずいぶん変わったと思う。自分の立場を正面から受け止めて、悩んでいないで立ち向かうという気持ちになったのだ。それは仲間がいる喜びに心のゆとりが生まれ、意見を出し合う中で、私と同じような悩みや苦しみを背負っていることを、以前のようにせっぱ詰まったように苦しむことがなくなっただけだ。

交流会は、それ以来私の生き方の励みとなり、支えとなつて今、私の心にしっかりと生きている。私の心の中にあ

る差別心と部落差別の存在に立ち向かう心の準備ができてきたのが、私の中ですごい収穫だと思う。

心の支えができて、私は前進しなければならぬと思っている。しかし、前進するのは私一人ではない。仲間とともに歩みたい。そのために私はみんなの先頭にたつて、手を引いていく役割をしたい。「誰かがしなければ……」私はその「誰か」になりたいと思っている。

ほんとうの仲間とは

三島中学校 Mさん

「がんばろうな。」

「今日は、ほんとうにありがとう。」

分散会が終わってみんなが解散したとき、同じ部屋だったたくさんの友達や先生が、私の横を通る度に声をかけてくれました。

私は、この集会の準備会から参加させてもらっていました。その時から、ある一つのことを悩んでいました。

「お姉ちゃんのこと、やっぱりみんなにも聞いてもらった方がいいのかなあ。でも、初めて会う人ばかりだからなあ。」

二年前、姉は結婚しました。その時、私はまだ、自分の

父が同和地区出身であることをはっきり知りませんでした。中学2年になって、父が同和地区出身だと知り、私はそのことをクラスのみんなに話しました。その時から、姉のことが気になっていました。

（お姉ちゃんは、結婚する時、相手に自分のことを全部話したのかなあ。やっぱり黙っているのかなあ。）

私はこのことを、姉に聞いてみようと思いましたが、しかし、このことを姉に聞くと今の幸せな生活を壊すような気がして聞けませんでした。

3年生になって、七月の初めに、「高松結婚差別事件」について学習しました。その時私は思いきって姉に聞いてみました。電話で、姉は全部話してくれました。

「私は結婚する時、家族の人や他の誰にも言わなかった。言おうかなと思ったけど、相手の両親が『あそこの人なあ……』って、食事のときとき話をするんよ。だから、（もし私のことがわかったら……）って思うと、とてもじゃないけど言えなかった。しかし、彼と結婚する時、『もし、私が同和地区出身だったらどうする。』て聞いたら、『別におまえのことが好きやから、関係ない。』って言うてくれたから、私ももつと強くなければならない」と言い、

次のようにつけたしました。

「私は今の幸せを壊したくない。子どもも生まれたから余計にそう思う。けど、この子が大きくなったら、きちんと話そうと思う。」

私は電話を切った後、ホッとしました。（聞いてよかったなあ）と。

それから二日後、同和問題学習をしました。

「結婚をする時に自分が同和地区出身だということを相手に言うか言わないか。」

やはり、言わなくてもいいという意見もあったが、言わないと相手を信じていることにならない、という考えの意見がほとんどであった。しかし、ある生徒は、「別に言わなくてもいいと思う。そんなん言うこと自体、まだ部落差別が残っているって言うてると思う。」と言っていました。私自身の考えは、前者の方でした。けれど、姉のことが分かって、（別に言わなくてもいいのかなあ）と思うようになりました。

二つの意見のどちらを選択した方がいいのか、私はずっと考えました。（今度の中学生集会で、このことをみんなに話そうかな）と思い、当日、分散会でこのことをみんな

に話しました。

すると、みんな真剣に考えてくれて、（初めて会った人がほとんどなのに……）と、すごくうれしくて涙が止まりませんでした。『本当の仲間』というのは、自分の悩んでいること、自分の思うことを語り合えるものなんだと、この時、実感しました。

分散会が終わった時、準備会から友達になった子が、「ありがとう。今日は本当にありがとう。」と、何度も何度も泣きながら言ってくれました。

（私は、本当にこの会に参加してよかった）

今、私は心の底からそう思っています。

ある先生が言っていました。

「今日、ここに集まったみんなは、たとえこれから会うことがなくても一生大切な仲間になるよ。」

たぶん、これから先、部落差別という大きな壁に真正面からぶつかなければならない時があると思います。その時は、先生が言っていたことを思い出して、「私には信じ合える仲間がいるんだ。一人じゃない。」と、強い心をもつて、立ち向かっていきたいです。

中学生集会に参加して 国府中学校 Mくん

この会に参加して僕はよかったと思う。一つは、またいろいろな人と知り合いになれたからです。そして、その中でみんなで話し合えるということは素晴らしいことだと思います。しかし、初めてでみんな緊張していたのかしらないけど、一度も話すことなくこの会が終わった人もいると思います。だから次のこういった会では、最初から、みんながうるさいくらい意見の出る会にすれば、もっといいと思います。そう、例えばそういった会にするためには、分散会を一種のディベート（ディスカッション）みたいなのにすると、もっとすばらしい会になると思います。

それでは、来年もこの会が成功することを願います。

牟岐中学校

ぼくは、部落解放学習会中学生集会に参加しました。そして、みんなのたくさんさんの意見を聞いていると、勇気が出てきました。でも自分が発表することはできませんでした。

ぼくは、まだこれといって部落差別を受けたことがありません。でも、もしそんなことを受けても、相談できる、信じ合える仲間をつくるのが大切だと思います。

分散会に参加しての感想 新野中学校 Iさん

私は、分散会では人の意見を聞くだけで、自分の意見を言うことができなかったのが後悔しています。でも、みんなの意見を聞いて、心に残ったことがたくさんあります。意見を言ってくれた人が、自分の素直な気持ちをかくそうとせずに、私たちに伝えようとしてくれたこと、積極的に意見を出し合い、自ら仲間の輪を広げていこうとしてくれたことが心に伝わってきました。同じ学年なのに、私の何倍も部落差別に苦しみ、疑問を持ったり、将来に不安を感じたりしている人がここにいるんだということに、初めて気づきました。

それと同時に、やっぱりまだまだ部落差別は残っていて、誰かが誰かを傷つけているということも知りました。みんなの意見を聞いていると、私なんてまだ部落差別の問題に対する意欲や、知識がたりないと感じました。

分散会に参加して、人の意見を聞くことによって、私自身の未熟な部分を見つけたことができました。意見を発表してくれた人に心から感謝したいです。そして、できればまたこのような機会をつくって、もっともっとお互いを分かり合っていけたらよいと思います。

中学生集会对する感想 新野中学校 Iさん

四人の人権作文を聞いて、みんな部落差別に対するはつきりとした意見を持っていて、すごいと思いました。中学生集会に、あんなにたくさんの人が集まるとは予想もしていなくて、会場に着いたときは、自分の意見がきちんと言えるかどうかとても不安でした。

でも、一部の人がこの中学生集会を盛り上げていこうと、積極的に意見を発表している姿を見て、私もこんな人たちの仲間の輪に加わって、部落差別の間違いを正していくために学んでいきたいと思うようになりました。

実際に、二回も三回も一生懸命意見を言っている人に対して、私は結局一回しか発表できなかったけど、この意見が、あの集会に参加していた少しの人にも伝わってくれていたらいいのと思います。

はじめての中学生集会で、まだみんなが周りの雰囲気にとけ込めていないようで、少しかたい感じの集会でしたが、会を重ねることもっとよい集会になると思うので、これを最後にせずに、二回、三回と続けたらよいと思います。

分散会に参加しての感想 新野中学校 Hさん

たくさんの方の意見が聞けてよかった。全員が言えたわけではないけど、全ての人の気持ちひしひしと伝わってきた。

私がとてもためになったのは「同和問題学習をする時は、発表する人はもちろん、発表しない人もイキイキできる時間であればならない」ということ。

誰かが「結婚差別されたら、自分は今までこんなくたらない人間と付き合っていたんだと思って忘れたい」と言った人がいたが、それは違うと思う。何の問題解決にもなっていないと思う。結果を重視するより原因を重視し、誰が悪いのか、誰も悪くないとか、わかっていない人に教えればいい。

中学生集会对する感想 新野中学校 Hさん

「この人と友達になっていろいろなことを相談したい」と思った人が何人もいた。新野では、これだけ積極的に前進している人がまだいない。だからもし自分が差別されたとき、「この人に相談しても頼りない」とか思ってしまう。実際、差別された時がまだないから、その時は誰に相談するかわからないし、言わないかもしれない。板野のみんな

や他のたくさん発表した人と友達なら、私は相談する。今の新野の友達を信用していいわけじゃなくて、頼りないから。自分もそうだと思うけど、自分が頼りがいのある人になれば、周りもそうなるのだろうか……わからない。

分散会に参加しての感想

新野中学校 Hさん

一人のためにみんなが考えて、すごくよかったと思う。初めて会った人が多いのに、悩みを相談してくれたことがすごくうれしかったです。その友達の悩みの事だけど、私は言ったほうがいいと思います。両親も話をして、わかってくれるまで話し合えばわかってくれると思います。あまり話し合いに進んで参加できなかったけど、すごくたくさんのかんことをみんなから学びました。一人のためにあんなに話し合ったことは、初めてだと思います。分散会で学んだこと、そして仲間を忘れたくないです。

中学生集会に対する感想

新野中学校 Hさん

一言で言うとう、参加してよかったです。たくさんのかんことを学ぶことができたし、自分の考えていることを少しでも話し合いに出すことができたからです。この中学生集会で、

すごくいい本当の仲間ができたような気がします。中学生集会に参加するのは、最初で最後だけど、後悔することはありません。本当に参加してよかったです。学んだことを大切にしたいです。ありがとうございました。

吉野中学校 Nさん

交流学習会に参加して、いろんな友達に出会いました。同じ悩みを持つ人や、誰かに聞いてほしいと日頃から思っている人。それぞれいろいろな個性を持った人で、いい人ばかりでした。なのに、その人たちは、つらい思いをした人、部落出身という理由で差別を受けたなど、心に傷を持った人がほとんどでした。こんなにいい人たちばかりなのに、私はどうして部落出身というだけで、差別を受けなければいけないのかわかりません。みんな同じ人間なのだから、そんなことされる理由はないのです。私は、今まで部落出身だから差別を受けるという現実なんてどうでもいと思っています。けど今まで交流会に参加してきた中で、その考え方が変わり、他人の事も自分の事として受け取るようになりました。これも交流会に参加することによって、身についたものです。私にとって交流学習会は、私の心の

中を大きく変えたものです。もう交流会に参加することはできないけど、また機会があれば、参加してもっと多くの人の意見や悩みを聞きたいです。そして、少しでも多くの人の心の傷をなくしてあげたいです。また会えるといいですね。

交流会に参加して

吉野中学校 Kくん

「学習会には、部落外の人が参加するのはおかしい。それは部落の人の立場は、部落外の人にはわからない」という意見の人がいました。ぼくは、この交流会に参加してこの意見を聞いた時、すごくやさしかったです。というのは、その時自分がその意見に対して自分の意見が述べられなかったことがくやしいです。

「なぜ、そんなことを言うんだ。部落内外関係なくお互いの立場を尊重し合いながら参加することに意味があるんでないか」というふうにそこまでまとまっていたのに、意見できなかった自分がとてもくやしかった。

こういう会では、やっぱりはつきし言い合っていくことがたいへんなんだな。これが教訓です。次回こういう会があれば、ハキハキ自分の率直な意見を言っていかなくてはい

けないと本当に思いました。

吉野中学校 Tさん

私は、交流学習会に参加してみてもよかったと思います。その一つは、いろんな人から、いろんな意見がきけたことです。その中で、一番印象に残った所は、分散会での場面です。一人の女の子が涙を流してまで自分のお姉さんの受けた部落差別のことについて、話してくれたことです。その時、私はいろんなことが思い浮かびました。でも、それを言葉にできず、一言でもしゃべると涙が出そうだったので、手を挙げて発表することができませんでした。それが、一つ悔いの残る所です。

それと、私がつとよい交流学習会にするには、部落差別を受けた人だけでなく、部落差別にあまり関係のない中学生の人も集まって、いっしょに部落のことを考えていくのもいいなと思います。というのは、もっと話を深められると思うし、差別というのは、受ける人だけが話し合っているのではなく、受けない人も……。すべての人が考えていかなければならない問題だと思います。これから、真剣に取り組まなければならないと思います。

交流学習会に参加して

吉野中学校 Mくん

僕は、交流学習会に参加する前「どうしても暗い感じの会になるのかな」と思っていました。しかし、会場に入った瞬間、そのような思いは一気に吹き飛んでしまいました。それは、違う中学校の人が元気にあいさつをしてくれたからでした。そして、話し合いの中でもみんな活発に意見を出し合い、圧倒されてしまうぐらいでした。でも、その会場全体は、誰でも気軽に自分の意見が出せる、明るい感じに見事にできあがっていたと思います。その時に、こんな仲間がこんなに近くにいたら、差別などすぐに無くなるだろうなと本当に思いました。

僕は、これからの人生の中で、いろんな差別を見ると思っています。そんな時に、この会に参加した事が、大きな支えになってくれるだろうと思います。

交流学習について

吉野中学校 Yくん

初めて交流学習会に参加してみて、どんな会なのか分からないまま参加していたけれど、回を重ねることに、この会に参加する大切さを感じました。

交流学習会では、部落差別や同和問題について話し合い

をしました。僕はこの会に参加して、自分から動くことの大切さを教わってきました。初めのうちは、慣れていないというよりも、恥ずかしいというのが先に立って、意見が出せなかったけれど、だんだんと周りの子とも友達ができきて、自然と意見が出せるようになりました。本当に交流学習会に参加して、いい体験になったし、とてもいい思い出になりました。

分散会について

板野中学校 Mさん

まず最初に、何時代に誰が作った差別なのか、みんなで言った。「江戸時代に武士が勝手につくった差別」だと思んなが言った。たいていの人がこのことを知っていると思う。次に誰から聞きましたか？という問題だった。みんなが答えた意見は様々だった。「学校の先生に……」とか「おばあちゃんから」だった。初めてだったし、なかなか進まなくて、途中で止まってしまった時もあったけれど、みんなと話し合えてよかったと思った。

中学生集会のこと

板野中学校 Mくん

ぼくは、分散会の司会をしました。すごく緊張してなか

なか進めれなかったけど、他校の先生に助けてもらい、たぶん意見交換できたと思うし、ぼくにとってはよかった分散会でした。

集会全体で報告をまとめるのを忘れていて、何を言っただらいかわからなかったけど、先生が助けてくれてよかった。今度集会をするときは、自分で納得のいく集会にしたいと思います。

中学生集会に参加して 板野中学校 Mくん

僕は、昼の分散会から参加しました。昼食を食べている時も、会場内のあたたかい空気を感じました。そして分散会へ。その分散会の中では、となりにいた国府中のMくんと自然に話すことができたし、いろんな中学の人の意見を聞くこともでき、すごくよかったと思います。でも、途中で意見が出なくて静かになってしまったというふうにもなっていましたし、結局、僕は司会者にあてられるまで、意見が言えなかった。けど、参加して楽しかったし、知らない中学校の人といっしょに部落差別やいろんな差別について話し合えてよかったと思いました。